

珊瑚礁魚類標識放流調査

海老沢明彦・山本隆司

嘉数清

I 目的

ハマフエフキ等珊瑚礁魚類の天然種苗による標識放流を行い、その移動、成長等の生態的知見を得ることにより、魚類種苗放流技術の開発に資する。

II 材料及び方法

III 結果と考察 については（昭和55年度沖縄特定開発事業推進調査）、珊瑚礁海域魚場開発計画調査結果報告書に詳しく記されているため省く。

IV 要約

昭和55年10月24日にアイゴ類、ヒラアジ類、フエフキダイ類を夫々羽地外海域に314尾、123尾、188尾、内海域に344尾、173尾、131尾標識放流を行い56年2月20日現在までの再捕結果により、それらの移動生態などについて検討を行った。

1. アイゴ類の再捕尾数はます網で5尾、刺網で9尾でその再捕率は外海放流群で0.96%、内海放流群で3.2%であった。放流地点から1km以内の再捕が10尾と全体の約70%を示めたが、5km以上離れた地点からも4尾、約30%の再捕があった。
2. ヒラアジ類はます網で5尾、刺網で4尾再捕され、その再捕率は外海放流群で0.81%、内海放流群で3.2%であった。内海放流群は内海域でのみ7日以内に再捕されている。その間の移動距離は1~3kmの間が最も多く60%以上となった。
3. フエフキダイ類は外海放流群の再捕が全く無く、内海放流群ではます網で3尾、釣で3尾再捕され、再捕率は4.6%であった。釣では放流の32、37、39日後に再捕されたが、この間の成長については有益なデータが得られなかった。
4. アイゴ類、ヒラアジ類は放流直後の再捕が大半を占め、12日目以後の再捕が全く無い。その原因はいろいろ考えられるが結論を出すには至らなかった。